



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 平成28年11月1日
発行者 校長 末永 寿宣

No. 309 11月号

尾久西小学校「自然園」のリニューアル

～legacy（レガシー＝遺産）として後世に受け継ぐために～

校長 末永 寿宣

荒川区では、環境先進都市の具体的な実現方策として、荒川区基本計画「幸福実感都市あらかわ」の中で、次のように謳われています。

- 「区民、とりわけ次代を担う子供たちを中心として環境学習・環境教育を推進します。」
- 「学校と地域が一体となった具体的な環境教育活動を実施します。」

本校では、今まで校庭の南側に広がる「自然園」を整備し、子供たちの環境教育の一環として、活動してまいりました。今後は、学校と地域が一体となって、この自然園を本校の遺産（レガシー）として、後世に残していく必要があります。

過去 尾久西小学校自然園の大改修工事

自然園は、平成19年（2007年）6月1日にNECキャピタルソリューションズ様のご協力により、NPO法人「アサザ基金」様のお力を借りて、尾久西小学校自然園の大改修工事が行われ、現在の「かっぱ池」を含む尾久西小自然園がスタートしました。その作業工程は（1）ビオトープ*用の穴を掘り、（2）その穴にビニールシートをかけ、（3）ビニールシートを土で覆い、（4）水草等の植物を植え（5）水を入れる、という大規模なものでした。通常は子供たちが手作業で穴を掘るのですが、造成予定地の土の中に植物の根や石が混ざっていたため、重機を使って穴を掘ることとなりました。



▼当時の造成の様子。重機で耕した土の中から、ネザサと呼ばれる植物や、石を取り除き、ビオトープの土台となるよう形を整え、ビニールシートを敷き込んだ。

現在 憩いの場所・探検の場所

現在の自然園は、植物が青々と茂り、休み時間や放課後の憩いの場所・探検の場所となっており、子供たちに親しまれています。また、ビオトープ*「かっぱ池」は卒業生と本校のOBである漫画家の小島功先生とのコラボレーションにより命名され、看板も残されています。このかっぱ池は、自然園中央に位置しており、数種類のカエルが生息し、子供たちは、思い思いにオタマジャクシをとり、成長の様子を教室等で観察しています。



▼現在のかっぱ池の様子。自然園の中央部に位置し、周りには石が敷き詰められており、一部ビニールシートが露出している。

未来 学校と地域が一体となった環境教育活動

今後、5・6年生で構成する環境委員会が中心となり、地域の方々と一緒に活動をしてまいります。まず、11月4日（金）の環境委員会では、地域の方との交流活動として、「かっぱ池」にメダカ300匹を放流し、ビオトープ*のリニューアルに挑戦します。これらの活動を通して、地域の方々と交流を進めながら、未来を担う子供たちの環境意識を高めるきっかけになればと考えております。

尾久西小の子供一人一人が、身近にある自然園を活用し、学校と地域が一体となり、環境学習・環境教育を存分に享受できるように、保護者・地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

* ビオトープ Bio（生き物）とTop（場所）の合成語で「生き物の生息空間」を意味し、植物・小動物・昆虫・魚・鳥など多種多様な生き物が共生できる場所のこと